

# 第1学年 美術科学習指導案

日時 平成20年11月20日(木) 5校時

学級 1年B組 男20人, 女17人 計37人

授業者 佐瀬 良聡

## 1 題材名 平面構成「構成美の要素, 美の秩序」

## 2 題材について

### (1) 学習内容の概観

学習指導要領における美術科第1学年の内容には、「デザインや工芸などに表現する活動を通して次のことができるようになる。」と表現活動について習得させたい基礎的・基本的能力が記述されている。その中の「形や色彩, 材料, 光などがもたらす性質や感情を理解し, 生かし方を考え, 美的感覚を働かせて美しく構成したり装飾したりすること。」に注目して本題材を設定した。

デザインという領域において, 身近なものをよく観察し, 独自の形を考え, 単純化や強調をする「発想力」「構成力」は必要不可欠なものである。しかし何も無いところからの発想は不可能であり, ある程度の発想に必要な具体的なテーマと構成に必要なルールを与え, 「発想力」「構成力」を引き出す訓練としたい。さらに今後ポスター等の自分の主張を伝える視覚伝達デザインにおいて, 学習した内容を振り返り, また発展させていきたい。

### (2) 生徒の実態

1年生らしく元気で率直な反応を示す学級である。しかし反応が良い反面, 私語が続き, 注意事項をしっかりと把握せずに作業に入り, 授業規律がなかなか確立されない場面も多く見られる。授業での作業内容や注意事項は, 短く明確にし, その都度聞く姿勢を作るか, また板書して目に付くようにさせなくてはならないのが, 指導の課題である。

また生徒は小学校の指導過程で「造形遊び」が多かったため, 経験不足からよく見て絵を描く, しっかりと色を塗るということに苦手意識を持っている。入学当初にレタリングを扱ったところ, 文字の見本を集中力の途切れからよく観察せず, 水と絵の具の分量が上手に調節して平面に塗る「平塗り」ができない生徒が少数いた。絵の具は美術で最も多く使われる道具の1つである。今一度身近なものを意欲的に観察し, 単純化や強調をすることで発想力を育み, 最低限「平塗り」の技術を, 集中力を持続させ確実に習得させたいと考えている。

### (3) 指導の構想

本題材には作業段階に沿って, 指導の柱とする目的が3つある。

最初は自然物や身の回りの物の形を組み合わせ, そこから新しい形を発見し, 美しさを感じることを通して発想力を高めるねらいが1つ目の目的である。

次に, 私達が美しいと感じる平面作品や模様には, 画面上の物の配置のあり方, 形や色の組み立てにある秩序を見つけることができる。その秩序の種類をデザインの知識として, 鑑賞と具体物を使用した簡単な演習から学ぶというのが2つ目の目的である。

3つ目の目的は画面構成を工夫した後に, ムラ無く美しく彩色することであり, 先に「色の整理」という題材で学んだ配色や混色の技能を振り返り学習し, 「平塗り」や「マスキング」といった絵の具を使用する上での基礎技能の総まとめとしたい。

### 3 題材の指導目標

- (1) 材料の持つ性質や特質を考え、新たな形を発想することができる。
- (2) 発想した造形要素を生かして、構成美の要素を用いて画面構成することができる。
- (3) 使用する描画材の性質を捉え、彩色することができる。

### 4 題材の評価規準と指導計画（13時間）

時	学習活動	評価規準			
		関心・意欲・態度	発想・構想	技能	鑑賞
1	自然物や身近な物を様々な視点で観察し、スケッチする。	自然物や身近な物の隠された形に関心を持って観察する。			参考作品を鑑賞し、様々な視点を作品に取り入れることができる。
2	興味を持てる角度から単純化や強調を行い、アイデアスケッチをする。	構成美の秩序に興味を持つことができる。	よく観察し、その特徴を捉えて発想することができる。	単純化や強調をし、新しい形を作り出すことができる。	
1 本時	美しい構成の手法を知り、画面構成を考える。	構成美の秩序に興味を持つことができる。		技能演習を通して、構成美の手法を表現できる。	
2	定規コンパス等を使用し、形を整えて、工夫して構成する。		構成美の秩序を用いて、変化と統一感のある構成ができる。	定規コンパス等を使用し、形を整えて描くことができる。	参考作品を鑑賞し、美の秩序を作品に取り入れることができる。
1	形と背景との色の対比や感情を考えて配色計画を立てる。	色と形を自分のイメージに合わせて工夫して表現しようとする。			
1	全体の変化と統一や表現方法を工夫して表現する。		配色や形を考えて、まとまりができるよう工夫できる		
4	配色計画に従って、彩色し完成する。	意欲的に集中して彩色する。		配色の類似・対象を取り入れ、はみ出しやムラ無く彩色できる。	
1	鑑賞会をし、同じモチーフの捉え方の違いなど話し合う。				友人の作品を鑑賞し、その良さや美しさを味わうことができる。

## 5 本時の内容

### (1) 本時の目標

- ・ 構成美の秩序に興味を持つことができる。【関心・意欲・態度】
- ・ 技能演習の題材を、構成美の手法を用いて、作ることができる。【創造的な技能】

### (2) 具体の評価規準と評価方法

観 点 (評価手段)	十分満足できる状況 (A)	おおむね満足できる 状況 (B)	努力を要する生徒の 指導の手立て	評価方法
関心・意欲・態度 (授業態度, 発表)	構成美の秩序に興味を持ち, その種類を理解することができる。	構成美の秩序に興味を持つことができる。	構成美の要素があると作品に統一感がでることを理解させる。	プリント 発言
技能 (作品)	技能演習を通して, 構成美の手法を表現できる。	技能演習を, 構成美の手法を用いて, 行うことができる。	演習の正確な作業が統一感をつくることを気づかせる。	色画用紙 プリント

### (3) 展開

	学習内容	時	学習活動	○評価項目と●留意点
導入	1 前時学習の確認	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 単位となる独自の形を作れたか, 作業進度を確認する。</li> <li>・ 人が考えた模様は統一感やルールがあることを確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●前回までの作品を写真紹介</li> <li>●古代からの模様を写真で紹介 (中国・エジプト等)</li> </ul>
	2 学習課題の把握	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本時の学習課題を確認する。</li> </ul>	
<b>画面に美しく配置する方法を考えよう。</b>				
展開	3 課題の追究	20	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 代表的な方法である「美の秩序」の説明を聞く</li> <li>・ クイズを交えながら, 8つの「美の秩序」の種類を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学習プリント配布</li> <li>●紙板書を使って, 具体物で例を示す。</li> <li>○発言</li> </ul>
	4 作業	5 15	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 技能演習の説明を聞く。</li> <li>・ 折り方, 切り方によって独自の変化があり, 開くと統一感のある「切り紙」に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●色紙の配布</li> <li>●大きな切り紙や「紋切り型」の具体物の例を示す。</li> <li>○統一感ある「切り紙」作品</li> <li>●出来た者から「切り紙」をプリントに貼る。</li> </ul>
終末	5 まとめ	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 作業で使用した「美の秩序」を確認。</li> <li>・ 次時で行う画面構成のアイデアスケッチをし, 画面に美しく配置する方法を考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○切り紙の「美の秩序」をプリントに記入。</li> <li>●単位の形を詳しく描かず, 並べる位地にフリーハンドで印を付ける程度</li> </ul>